

受講番号 18031 学校名 高知西高等学校 氏名 上野 高裕

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 普通科2年3H 生徒数 41 名
 科目名 英語 単位数(授業時数) 4 時間 使用教科書名 POLESTAR English Course (数研出版)

クラスの様子・特徴

進学クラスで、生徒の大半が四年制大学への進学を希望している。明るく、元気な生徒が多いが、約半数の生徒が英語を苦手科目とみなしている。

問題の確定

基礎的な語彙力と文法知識の不足が原因で、長文を最後まで読むことができず、結果として、英語を苦手としている生徒が多い。

予備調査

A 授業の観察

当初は基礎的な語彙力と文法知識に欠ける生徒が目についたが、週明けテストをきっかけに自信をつけてきている生徒も少なくない。長文に対して自分の力で最後まで読もうとする姿勢が見られるようになってきた。

B 生徒による授業評価

約半数の生徒が英語に対して苦手意識を持っており、中でも、単語の暗記、文法、文章の構成、発音、長文読解を苦手としている生徒が多い。一方、多くの生徒が、わかりやすい授業、ためになる授業、面白い(楽しい)授業を望んでいる。

C 学力データ

7月実施の進研模試の得点率は、リスニング36.7%、発音・アクセント48.3%、文法・語法28%、長文読解19.8%、表現力26.4%となっている。

リサーチ・クエスチョン

どのようにすれば、教科書レベルの長文をある程度のスピードで正確に読めるようになるか。

仮説・実践・検証

仮説1

発音をしながら単語や熟語を覚える習慣を身につけると同時に、フレーズリーディングを身につければ、語彙力がつき、長文を最後まで読めるようになり、又読むスピードも上がるだろう。

実践1

発音できない単語を作らないように、教科書や週明けテストの単語や熟語の学習時に発音練習を多く取り入れる。フレーズリーディングについてはハンドアウトを使って指導し、日々の授業に取り入れていく。

検証1

週明けテストの60%が語彙力を見るものであるが、当初と比べ、大きな伸びと安定が見られる。又、アンケートによると、約82%の生徒が当初と比べて、長文を最後まで読むようになったと答えている。スピードについても、約70%の生徒が上がったと思うと答えている。

仮説2

高校一年次に学習した文法事項を復習し、構文についての理解を深めることにより、文法や構文のポイントを意識しながら長文が読めるようになるだろう。

実践2

文法については、日々の授業の中で指導していくだけでなく、週明けテストの範囲にも含め、文法に対する意識を高めていく。構文については、全員にテキストを与え、添削形式で個々に指導していく。

検証2

週明けテストの40%が文法・語法に関するものであるが、当初と比べ、大きな伸びと安定が見られる。構文については、個別指導のため、生徒間における進捗と伸びの差が顕著となった。アンケートによると、約74%の生徒が当初と比べ、文法や構文を意識しながら長文を読むようになったと答えている。

仮説3

パラグラフに関する理解を深めると同時に、ディスコースマーカーや指示代名詞を意識しながら長文を読む習慣を身につければ、長文がより正確に読めるようになるだろう。

実践3

パラグラフの構成については、日々の授業の中で適宜指導し、理解を深めるとともに、パラグラフに対する意識を高めていく。ディスコースマーカーや指示代名詞については、生徒を指名し、全体で確認をしていく。

検証3

アンケートによると、約70%の生徒が当初と比べて、パラグラフの内容を考えながら長文を読むようになったと答えている。ディスコースマーカーに注意しながら長文を読むようになったと答えた生徒は約87%、指示代名詞については85%と高い結果が得られた。そして最終的に、約80%の生徒が当初と比べて、長文の読解力が上がったと感じている。

研究の成果

各仮説と実践の結果、7割から8割強の生徒において改善が見られたことは実践者として喜びである。長文をある程度のスピードで、しかも正確に読むためには、語彙力だけでなく、文法などさまざまな知識や力が必要だということが多くの生徒に伝わり、認識されたと理解している。7月実施の第3回目の週明けテスト以降、再テスト対象者はほとんどいなくなり、クラス全体も活気づき、生徒たちの自信にもつながった。定期テストにおいても、回を重ねるごとにクラスの平均点は上昇している。

今後の授業改善の課題

アンケートの結果を見ると、多くの生徒が当初と比較して、長文が読めるようになったと答えているが、語彙力と集中力の不足が原因で、長文が読めないという声も依然として多い。11月実施の進研模試の結果からも、長文読解のみならず、すべての分野において得点率の下降が見られた。できるようになったという生徒の実感を全国模試の結果に反映させるために、授業の更なる工夫と改善が必要である。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 (088)844-1221

電子メール

takahiro_ueno@kt2.kochinet.ed.jp